ウェブで参観できる シリーズ「授業大公開」がオープン!

英語　2014年2月14日公開

兵庫県立川西緑台高校 **大目木俊憲** おおめぎ・としのり

生徒が「英語で考え、情報を得た」と実感できるよう、英語で授業を行う

◎導入の15分で『教科書を読みたい』と思わせる

私が初めて英語で授業を行ったのは、初任校１年目の時です。つまらなそうに授業を受けている生徒たちを見て、試しに英語で授業をしてみたのです。英語が苦手な生徒でも意欲的に取り組む姿を見て、私はその意義を感じ、それ以降、英語で行う授業のあり方について考えてきました。

授業で最も大切にしているのは、生徒に「英語で考え、英語で情報を得た」と実感させることです。そのため、生徒が「教科書を読みたい」と思うように、導入の15分に力を入れています。続いて、生徒が教科書の素材文を理解しやすくなるよう単語や熟語の確認をした上で、素材文の内容に関する質疑応答を行います。ここでは、素材文の最初の行についてから質問するのではなく、要点となる内容について聞いたキー・クエスチョンを投げ掛けます。全ての質問に答えた時に、生徒が素材文の内容をある程度、把握している状態にするわけです。

もっとも、英語で授業を行うことにこだわるあまり、生徒が正しく情報を理解できなければ本末転倒です。英語だけでは情報を伝え切れない場合、日本語で指示を出したり、日本語で考えさせたりするようにしています。例えば、今回の授業で扱った地雷の問題は、解決方法をしっかり考えてほしいと思い、英語で考えるのは難しいという生徒には日本語で考えるよう指示しました。

◎英語による授業は緊張感を生み、集中力を高める

英語で授業を行うメリットの１つは、生徒の集中力が高まることです。True or False やＱ＆Ａのように質問がパターン化してしまうと、生徒はそれに慣れ、次第に集中力が低下していきます。しかし、英語で授業を行うと、生徒はどんな形で質問されるのかを予測できないため、緊張感が生まれ、授業に集中するのです。また、英文から情報を得るスピードが速くなり、英語力が向上する成果も見られます。

◎肩ひじを張らず、自分なりの方法で内容を伝える

英語の授業を英語で行うことに悩まれている先生にお伝えしたいのは、１行目から全て英語で話そうと肩ひじを張らなくてもよいということです。教科書の素材文の内容を最初から最後まで全て伝えるというスタンスから少し発想を変えて、自分なりの方法で素材文の内容を伝えてみてはいかがでしょうか。

私の授業を見ていただき、さまざまなメッセージをお寄せいただければ幸いです。

■大目木先生のティーチングプラン ＊ウェブサイトで全てご覧いただけます

4. Teaching Procedure:

L:Listening　S:Speaking　T:Thinking

1st Segment(Introduction of today's story)

TIME	CONTENTS/Activity	AIM	L	S	T
10-15min.	Oral Introduction of Today's story mainly in English ·small talk ·to make them think about what is important in the story by giving questions and making them answering those questions. ·to explain the points that the students should focus on in the story ――― 積極的に英語を使用して、今日のレッスンの内容を紹介する。(必要に応じて日本語を使うケースもある。) 活動― ①教師から話を投げかけ。質疑応答の活動の中で、理解、関心を深めさせる。 ― ②今日のレッスンの内容面で、重要なこと。ここを押さえて読んでほしいところを、できるだけ英語を使って理解させる。	To change in their brain gears from Japanese to English To introduce today's topic and motivate them to read the story To make them understand what the main focus of Today's story is ――― 1. 頭の中を、日本語から英語に変える準備をさせること。(今から英語で考えてみるという態勢を作らせる) 2. 興味・関心(今からこのレッスンを読みたいという気持ち)を最大限に引き出すこと。なお且つ、英語で理解してみようという気持ちを触発させること。 3. 話しの中で何に焦点をあてて読めばいいのかを分からせること。 ＊この最初のセグメントで、1時間のレッスンの善し悪しが決まってしまう可能性が高い。	○	○	○

2nd Segment (To make the students picture the meanings of the words and phrases in their mind)

TIME	CONTENTS/Activity	AIM	L	S	T
10-15min.	To use the words & phrase sheet to make the students practice pair-work so they can picture	The ideal situation is the students picture the words' & phrases' meanings (or sentence	○		○

アクセスはこちら！

ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト（http://berd.benesse.jp）にアクセスいただき、トップ画面右のメニューバーから「シリーズ　授業大公開」を選択してください。

教師全体の教科指導力を向上させるためには、指導内容・方法の共有が不可欠であり、共有の場として設けられるのが公開授業です。ただ、時間的・地理的制約などで誰もが参加できるわけではありません。そこで、ベネッセ教育総合研究所は、実際の授業を撮影した動画をウェブ上で発信する形での公開授業を実現しました。初回は２人の先生が登場。ぜひご覧いただき、ご自身の授業改善にお役立てください。

地理　2014年3月14日公開

神戸大学附属中等教育学校　**高木　優**　たかぎ・すぐる

個人思考の時間を大切にすることで、グループでの言語活動の効果を最大化させる

◎グループ学習と生徒との対話を組み合わせた授業

私は新任の頃から、生徒と対話をしながら授業を進める生徒参加型の授業を心掛けてきました。それに、本校が50年以上継承してきたグループ学習の要素を組み合わせたのが、今の私の授業スタイルです。

今回公開する授業では、ヨーロッパの中でも生徒が具体的なイメージを持ちづらい東欧について考察しています。教科書では、東欧はＥＵの中でも労働賃金が安く、労働力の供給場所と位置付けられており、日本の製造業も進出して西欧で売る製品を製造している、とされています。そうした理解が本当に正しいのかどうか、データを基に検証するのがテーマです。

私の授業では、自作のワークシートを使いながら、テーマについて個人で深く考える時間、仲間と共有して視野を広げる時間を設け、それを基に個人の考えを更に深めていくというプロセスを大切にしています。

◎個人学習とグループ学習の繰り返しで考えを深める

今回の授業を例にして説明します。まず、個人で東欧のイメージを考えてシートに記入し、続いてグループで、ヨーロッパ、アフリカ、ユーラシア大陸を中心とした３枚の世界地図を使って、東欧の地理的な位置付けを考えます。

次に最新の論文を提示し、教科書とは別の切り口から東欧の産業構造について考察します。グラフを丁寧に見ると、東欧では確かに製造業は多いのですが、ポーランドにある日系企業の50％以上が卸売・小売業であり、東欧に近いオーストリアには日本企業の販売統括部門があることが分かります。これらは、東欧が労働力の供給場所というだけでなく、市場としても開拓が見込まれていることを示しており、そこに生徒が気付けるかどうかが、今回の授業のポイントです。

グループで話し合った内容をホワイトボードに書いて発表し、全体で共有した後、個人で本時の授業を踏まえて、東欧と日本との関係を100字程度の文章でまとめ、授業は終了となります。

言語活動を取り入れた授業は、講義型の授業以上に生徒の意欲を引き出せることが、テストの結果でも明らかになっています。同じ単元について、４年生（高１に該当）には言語活動を取り入れた授業、５年生（高２に該当）には講義型の授業と分けて行ったところ、４年生の方がテストの点数が良いという結果が出ました。

授業公開の際、私が意識しているのは、先生方が気軽に取り入れられる授業をすることです。これからも、先生方が「これならやってみよう」と思えるような授業を追究していきたいと考えています。グループ学習や言語活動を取り入れてみたいという先生は、ぜひ、本校へ授業見学にいらしてください。

■高木先生のティーチングプラン　＊ウェブサイトで全てご覧いただけます

６．本時の学習（２次６時）

(1)主　　題　［ヨーロッパの生活・文化］　東ヨーロッパと日本の関係

(2)ね　ら　い　・東ヨーロッパのスケールの違いによる，イメージの違いを読み取る。
・これまでの学習を踏まえ，これからの東ヨーロッパ諸国と日本の関係についてまとめる。

(3)教材観・方法観

東ヨーロッパは地表面での位置，自然的・人文的特徴がその成り立ちと変化，並びに日本との関係によって，生徒のイメージと大きくかけ離れている地域の１つである。一方で近年ますます，貿易や企業の進出，観光などの，人々の相互作用の関係が強まっている地域でもある。

その中で，様々な地図や資料を読み取ることで，イメージと現実との差違に気付き，国際的な問題解決能力の礎となる情報リテラシー，考察力の向上を目指す。

(4)指導と評価の計画

ねらい	主な学習活動・内容	評価方法と【評価規準】
東ヨーロッパのスケールの違いによる，イメージの違いを読み取る。	スケールの違う資料から東ヨーロッパのイメージの違いを読み取る。グループで意見を交換し合い，発表する。	ワークシートへの記入（提出・内容）やグループ活動の発言の様子から，「スケールの違いによる地域のイメージの違いを読み取れたか」を評価する。【資】
これまでの学習を踏まえ，これからの東ヨーロッパ諸国と日本の関係についてまとめる。	これまでの学習を踏まえ、これからの東ヨーロッパ諸国と日本の関係についてワークシートにまとめる。	ワークシートへの記入（記述量・内容）から，「課題をこれまでの学習を踏まえ考察し，自分の考えを述べているか」を評価する。【思】

(5)本時の流れ

時	学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
0	時事問題の確認 本時の学習の主題と流れの確認	○最近のニュースについて発表し，確認する。 ○本時の主題とねらいを確認する。	○発表されたニュースに対して，簡単な解説を加える。 ○本時の主題とねらいを確認させる。
5	東ヨーロッパのイメージについて［役割］	○東ヨーロッパのイメージについて考察する。 ○個人思考を踏まえ，グループ	○本時の授業の流れについて確認する。 ○グループ内の役割分担について責